



昭和48年12月1日

編集・発行

岡崎市教育委員会

以春風接人

あたたかな

のどかな風。

そして

新鮮な風。

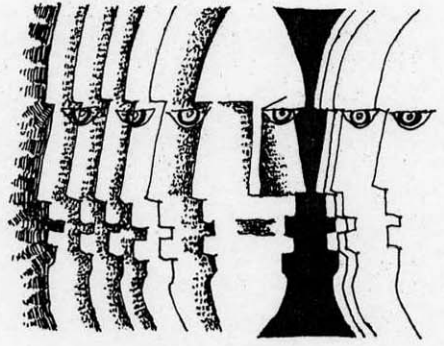
そんな風になりたい。

教育委員長

石川 巖夫



(冬木立 三島小)



教育随想

育てる

羽田 洋

上とはいかなかった。

十一月のわが家の庭は、まだ秋の気に満ちている。枝を広げた赤松と二十年を経たほそひばを中にして、ところ狭しとばかり花木が茂りあっている。現職を引いた今となってはこれらの草木のひとつひとつが思い出の種である。

赤紫の六弁を開いた鉄線もまだ細い蔓に花をつけているし、時をちがえた木瓜がピンクの花をつけている。どうだんつじは香風溪の紅葉を思わせ、野牡丹はまだ生々とした葉を広げている。

その中でも菊は花の王者である。今年には百鉢余、種類で四十八種の菊を作った。

展覧会に出品するなら良い品種を数種選んで作るのがよいと聞いているが、趣味として楽しむ私は、さまざまな花を咲かせて子どもや知人に配るが嬉しいのでそんなことはしない。厚物・管物・一文字中輪の嵯峨菊もあれば小菊もある。しかし半陽かけの庭で水をやり過ぎたため最

菊に比べて臯月はわが家に適している。南の軒下、ペランダの横など一年ざし、二年ざしが育っている。三年ともなればそろそろ樹形もほんのり整って、これからの希望を託すに十分である。

珍しい木にたがやさんがある。漢名で鉄刀木という。濃緑の丸葉をつけていて豆黄楊を大きくしたようである。家内の自慢の千両は、種から育てた御曹子で、形の整った木の上部に黄色の実を五つ六つつけている。雪の日が待たれるのがこの千両である。

霜が目立つ朝の空に飛行雲が棚引くと鶺が訪れる。香のよい長崎ガバーの実が熟するからである。小鳥どもは招かざる客人だが、共存の論理にのつとつて適時に訪れ、わが庭の実を啄んでいく。白南天もあけびもその提供者である。

大きぼうし、みつば葵、さぎ草など、

それぞれに思い出を持つものが、今は来る春を待っている。

育てることは楽しいものである。小学校教育を離れた今の私は、かえって育てることに郷愁に似た切々たる憧憬さえ覚えるのである。新興国は必ず教育に力を注いでいる。趣味としての菊作りさえ土の作り方から始まるのである。一年を一期とする菊を作って三寸鉢のころが一番大切かと思う。人にすれば幼時期の家庭教育である。岡潔さんの春宵十話にもその記事があったと思う。

人を育てるにはまず己を育てなければならぬ。若い先生は若さに溺れず、先輩者は経験に流されず、前をみつめて自己を磨いてほしいと切に願うのである。

いまはむかし

暖房



●子どもは風の子

戦前・戦中の子どもたちは、「寒いから教室にはいれ」の声に遊ぶのをやめて校舎にもどったものである。教室にたむろする現代っ子とは違って、いつも外で遊ぶ彼等は「風の子」と呼ばれ、乾布摩擦や耐寒駆け足に励んでいた。しかし、子どもたちの手は霜焼けで赤くはれ上がり、張りつめた授業の最中でも、そつと手を擦り合わせていたという。社会状況は、教室暖房を許すものではなかった。

●手づくりの暖かき

終戦前の根石小学校では、事務能率の向上のため、職員室にのみ火鉢を入れることになった。物質欠乏の時節柄、職員の手で仕上げることにした。厚板で大きなますを作り、その内側へ煉瓦を並べ、漆喰で固めての大火鉢づくり。山の木を伐採し、炭窯を借り受けての木炭づくり。に研究心を大いに燃やした。しかし、素人作りの木炭は、多量のすすと煙を職員室にもたらした。煙と机上の灰を時々はたき出していた暖房であったが、大火鉢を囲んでの、学童疎開、勤労動員等の話は尽きなかったという。

初の教育文化賞に輝く人々

●教室と家庭を結ぶ学級通信十五年の歩み

広幡小教諭 玉越 健彦

鉄筆を握り原紙の目に一つ一つ何を理めてきたのだろうか。白く浮き出ている文字の連続にどんな願いをこめてきたのであろう。家庭通信をなせ出すか。肩を張って言えばいくらでも難かしい理屈は述べられよう。しかし、理屈に先行するもの、それは、自分の周囲にある子どもたちの生活を一つの事実として定着させてみたいということである。

十五年前、私に鉄筆を握らせたものは、ただわけもわからず原紙に向かっていたというのが本当のところであつた。手づくりの心、といったらおおききであらうか。

(業績概要) 三島小在勤の三十四年来、担任の子どもの生活や意見、家庭への啓蒙的記事をまとめて独自なガリ版刷り通信を十五年間発行。

●吹奏楽による青少年の健全な余暇活動の推進

岡崎吹奏楽団 (団長柴田登)

私たちは学校を卒業しても演奏のできる健全な余暇活動の場を、そして近隣都市に負けない市民バンドを作ろうと、市内の音楽愛好青年が力を合わせて四十五年九月に結成しました。以来、順調に発展を遂げ現在では運営方針結んだ近隣の市民バンドからも

●郷土学習のための資料「矢作の里」の編集、刊行活動

矢作地区小中学校合同研究会

(代表・板倉四郎矢作中学校長)

矢作地区はすばらしい歴史や文化や産業を持っている。これを地区の人々はもちろん、岡崎の多くのの人々にも知っていただきたいというのが私たちの念願であつた。

「矢作の里」による受賞は喜ばし



注目されるまでに成長しました。「岡吹」は楽器をはじめ運営費全てが個人負担で全国にも数少ない純粋なアマチュアバンドといえます。これを機にいつそう頑張ります。(柴田)

(業績概要) 四十五年九月の結成記念演奏以来、市内では唯一の吹奏楽団として活躍、勤労者の余暇活動としての成果とともに市民音楽の輪を広めることにも努力してきた。

い。合同研究会はさらに史跡の保存や環境保全に取り組み、本年は環境緑化を共通テーマとして研究を進めている。(板倉)

(業績概要) 「矢作は一つ」の合言業で共同研究を進め、本年三月、一年がかりで矢作地区の歴史、地理、産業、文化などを、小中学生だけでなく一般市民にもわかりやすい郷土資料「矢作の里」として刊行した。

●古墳などの発掘、保存における文化財保護の活動

薬局経営 杉浦 正明

私が受賞できたのは、指導してくださった多くの先生方、協力してくれた友人、そして発掘だ、調査だと言つて出歩いている間家を守つてくれた妻のおかげです。

私がこのような研究が好きになつたのは、遠く小学校のころ受持ちの先生から法隆寺の話聞いてからです。子供心に遠い先祖が残してくれた文化財になんとなく興味をいだくようになりました。めぐまれた環境の中で小学生の頃に蒔かれた一粒の種子がやつと小さな花を咲かせたように思い自分なりに感謝しています。

(業績概要) 独学で考古学を研究、二十三年に本市の遺跡研究の発端となった村上遺跡の発掘調査に参加して以来十五回におよぶ古墳、遺跡の発掘調査を手がけ保存にも努力した。

●温飯器の功罪

児童・生徒の弁当を温めるために廊下や土間に温飯器が備えつけられた。ところが、火力の調整がむずかしく、焼き飯ができるのは日常茶飯事であつた。

昼食間近になると一種独特の臭いが各教室へ漂つてきた。ゆで沢庵の、忘れがたい臭いであつた。「沢庵を持って来たのは誰だ」という教師の声に、教室のふん囲気は一段と和らいだ。

また、温飯器が理科実験の教具に利用された。教科書にでんぶんがアルコールに変わっていく様子を確かめる実験があつたからである。いつの間やら米や芋の量がふえ、造酒技術の習得に磨きがかけられた。その教材が、早々と教科書から姿を消したことに異議を唱えたのは理科教師ばかりではなかつたようである。

●石油ストーブだけ

昭和39年、小学校一、二年の教室にダルム型コークスストーブが配置されたのが、教室暖房の初めであつた。今年度、小中学校の全学級に石油ストーブが完備した。暖房の腕前が試されることのない石油ストーブは、多くの教師から拍手で迎えられたことはもちろんである。ところが、石油不足と価格急騰の情報に「今年度は暖めさせてもらえらるだろうか」という話題が出る今日この頃でもある。

(広幡小学校校長・近藤正三、男川小学校校長・青木嘉夫、三島小学校校長・阿部俊房、六名小学校、青山正雄先生のお話から)

特殊教育に 取り組む



出席者
 石井卓夫(連尺小学校長)
 渡辺尚三(市教委指導主事)
 柄沢清弘(根石小)
 志賀 忍(南中)
 柴田寿正(連尺小)
 山西琴子(美合小)
 司会 大山康夫(梅園小)

●明るく伸びる子どもたち

大山 きまうは、特殊学級の担任としてその喜びや悩みをお話し願いたいと思います。まず、特殊学級が設置されて、子どもがどう伸びているかといった面から柄沢 普通学級でちこんでいた子が、特殊学級へはいると、伸び伸びしてきますね。ほかの先生からは、何をやっているんだ、という声も聞かれますが……。
志賀 いわゆるお客さんで、忘れられていた子も、目がよく届くので、眠っていた能力が伸びてきて、性格も明るくなりますね。
山西 子どもの顔付が変わってきたとか今までニコッともしなかった子が、ニコ

ニコと話しかけてくるようになったとか他の先生から言われますと、担任としてひしひしと喜びを感じます。

柴田 学区外からもぜひ入れてと頼みみえ、バスで三十分もかかって通うのを見ると、親も子も喜んでいてくれることがよくわかります。

●突き当たる壁

大山 次に特殊学級をめぐる問題点についてお話を。

柴田 普通学級へもどしてもらえるかどうかが、親の一ばんの関心事ですね。安易なことと言えないにしても、希望もてるようにしておかねばなりません。わたしの学校では、五、六年ではもどす問題はありますが、希望をつなぐように配慮しています。
志賀 親やまわりの人の理解を深めるには、実績を上げることしかないですね。親の期待するほどの学力をつけることは容易ではありませんが、性格や生活の面でよくなつていくのがわかれば、必ず理解してもらえるようになりますね。
山西 最初は、ほかの子がばかにするよ

うなことを言いました。そこで「学校中で一ばんいいクラスにしましょう。廊下の歩き方でも、手洗いで、そうじでもみんなの手本になりましょう。」と子どもに話し、小さなことから実行しました。そしたら、いつのまにか変な声は消えてしまいました。

渡辺 学力もだいじですが、行動とか、しつけの面から手がけるのが第一ですね。学力のことというと、たとえば、とび箱の練習で、とべない子には低いのをとばせませぬ。これに対し親はこごとを言わないのですが、こど学習になると、いろいろ言うのです。この辺のことも親にもわかってもらいたいですね。

石井 きれいいごとはだめですよ。親は入れることがいいことは、百も承知しています。自分の子の悪いところはよく知っています。さあ入級の相談に来られたらたまらんですよ。親や子どもが、腹の底から喜ぶ形をとっていかないと、次年から必ずゆきづまりますよ。

●自信への道

大山 自信を持たせることがすべての基礎になると思いますが、実例を……。
志賀 うちでは、三学級ありますが、運動会の学級対抗は、四人でも五人でも他のクラスと同じようにやります。記録は低くても、敢闘賞がもらえ、親まで喜んでくれました。ある生徒は、陸上部へはいり、一位もとり、これがかなり大きな自信となつて、他の面にプラスしました。

柄沢 夏にプールで、水の中に顔をつけることを徹底的に鍛えたのです。原級へかえつて、この中から三人選手になり、よい成績をとることができました。
渡辺 そういった点で、人数が少ないという点にとらわれるのではなく、少ないことをうまく利用する方がいいですね。

大山 ほかの所の例ですが、週番が同じように点検して回ります。点検カードもあります。教師も配慮して事前に名札を調べたり、くつの整とんをしたりします。一週間、全員よかつたということで集会で表彰を受けたんです。これをきっかけに、子どもがだんだん変わってきたのです。教師は意図的に自信をつける手だてを講じてやることも必要です。

柴田 ソフトのことですが、子どもたち



(左2人目から志賀・大山・石井・渡辺・柴田・柄沢・山西の各先生)



(ひとりひとりにはげましを)

わたしとおかあさんといっしょで、励ましているうちに、やっと「さよなら」が言えるようになり、手を取り合って喜んだものです。

また、花だんに水をやるのが楽しみで学校へくるような子ですが、ある時に、ヒマワリの芽が出たら、みんな根っこから抜いてしまふんです。どんな根が出たか、ひとつひとつ見たかったというのです。こういう時も叱らずに、探究心を育ててやるのが大切なんだと思いました。

志賀 授業中、よく眠っている子がいるのです。ところが、理科にはとても興味をもっていてね、ミミズを持ってこいといええば、ちゃんときがして持ってきてくれます。コケをたのめばどこをどうさがしても用意します。これをほめていつていているうちに、理科の成績もかなり向上してきたのです。これに自信がついて国語の成績もだんだんよくなりました。きつかけをつかまえては認め、ほめてやる。ひとつのことを突破口にして他のことも自信をつけることができると思います。

●一本の学級旗

大山 非常に少ない人数でありながら、学級としてのまとまり、学級の独自性を出すことに苦心しています。

柴田 おかざきつ子展の学級旗を作ったのですが、一学級として旗をもらった時はうれしかったね。他の学級と同じように認められたのですから。しかし、他のクラスと同じように並べるには、勇気が

いらすね。

柄沢 親の手前、普通学級の子と同じように比べるので、気をつけなくてはね。

渡辺 やっぱり、そういう時、思いきって出さなくてはね。ひっこめてしまうと機会もなくなるし、少しは無理でもやらせてみる必要があるんじゃないですか。

石井 独立の学級として存在する以上、思いきってやらないと、子どもたちの独立精神がなくなってしまうからね。

大山 わたしも最初、弱ったなあと思っただけど、八時間ぐらいかけて図案をかき何回も話し合っっては作り上げました。六人が自分の顔をかいて共同製作をしたのですが、やってみてほんとうによかったと思います。普通学級では、二、三人の子にかかせておく。特殊学級のよさは、ひとりひとりが図案を考え、色をつける。少人数でするので、教師と子どもとのふれ



(がんばる子ら)

あいもそこできけるわけです。

●開かれた教師

大山 学校の中の位置が、先生も子どもも不安定で、とかく孤立しがちですがこれをどう打開しますか。

柄沢 今年から三クラスになり、とても心強くなりました。校長先生に何かお願ひする時なんか、二人で行きますと違ひますからね。困ったことなんかでも話し合えるということは、ほんとうにありがたいですね。

渡辺 学校の中で、先生が孤立してしまふと、子どもまで孤立してしまいますね。孤立すれば、普通学級の子と、完全に隔離されてしまいますからね。

石井 もしそうになると、見ていてごらんさない。三学期になると、ほかの子と絶対遊ばなくなりすよ。これが非常に危険ですね。

渡辺 先生も開かれた先生でなければならんし、教室も開かれた教室でなければダメですね。先生がほんとうに心を開いてみんなの中にとびこんでいかないと、子どももとびこんでいけないじゃないですか。

石井 教育の本来の姿を知るには、特殊教育の経験を持つことだと思います。現在やってみる先生方が、腹の底からそう信じてやってくください。それとともに学校の中で、先生方の位置がもっと安定することを願ひ、われわれもそのように努めたいと思います。

中国の印象

「揚子江の長大な流れは、一日に約十哩走る汽船で九昼夜走りつづけていても、まだ川幅が狭まった感じは起らない……」。

河南省と直隸省(現在河北省)と山東省とは、ほぼ同じ土質、同じ草木、同じ畑作で限りもない平原を形づくっている。その間を走る汽車はいつまでいっても一つのサークルをグルグルまわしているものと思われたい。無制限な単調、それは天然でなければ示すことのできない永久の沈黙ではないだろうか」(河東碧梧桐「支那に遊びて」より)。これは、碧梧桐が大正七年の中国旅行の感想である。

中国といふとまず広大な土地を思い浮かべる。引用した文は五十余年前のものであるが、現在にも通ずる的確な描写である。このたび訪中青年代表団の一員として、三週間の中国訪問という貴重な機会を得た。日中国

菅 沼 剛

交回復後一年、中国ブームと言われる中で新しい中国を見た印象の一端を紹介したい。

広州は30度を越す真夏の暑さであった。ジェット機で二時間余、北京は20度前後、実に気持ちの良い気候である。食べものも気候も、言葉も、一つの国でこんなにも違うものかと今さらながら広さを感じた。

東北地方の工業都市瀋陽を訪ねた。ここは、日本が大陸への拠点としたところである。私たちは、ここでも熱烈な歓迎を受けた。日支事変当時の人々も相対するはずであるのに……。

この瀋陽で私たちは、多くの人たちから次のような言葉を何度か聞いた。「過去の侵略は、一部の日本帝国主義者の責任であって、大多数の日本人にはその責任はない。これからも日本人と友好的につきあいたい……」と。

上海で少年宮を訪ねた。ここは、学校教育以外でサークル活動を中心に行なう組織である。模型飛行機、無線電信、ピアノ、紙細工、踊り、……二十種以上のサークルが活動していた。ここでは、サークル活動の他に、解放前の中国の様子を老人から聞いたり、工場労働者から労働について聞いたりする会を設けていた。社会主義的精神教育もあわせて行なっているのである。

広州ろう啞学校でのハリによる治療、遼寧中医学校でのハリ、麻酔による手術、清華大学訪問、人民公社の訪問、大連市内の大規模な地下防空壕の見学……等々、いずれも、一貫した、強烈な思想が脈打っていると感じた。

感心したり、理解できない点も多く、考えるほどにわからないというのが私の認識した中国である。



図 書 紹 介

なんじゃもんじゃ

—— 植物学名の話 ——

上村 登
北隆館 550円

待ちわびていたタイプの書物である。ひさしぶりに足を地につけて読みふけり、土の香を十分に満喫した。学名というと何か縁遠いようであるが、これほどこまやかに人間とのふれ合いを大切に、しかもユーモラスに表現されていたのかと、改めて認識させられた。

先人達の観察力のすばらしさ、するどさ、絶対にゆずらない態度の中につねにユーモアを忘れない歩み、こんな中に私たちの生活をふり返る必要はないだろうか。

(河合中 古田 忠久)

奥美濃のこころ

—— 多喜女ききがき ——

水野 隆
東京新聞出版局 980円

多喜女が語る詩情豊かな奥美濃の生活・行事・風習は、わたくしたちの幼い日の記憶をよびおこし、よき時代のふるさとへの想いをかきたててくれる。

また、四季おりおりのもよおしごとの中にかもし出される人情味がページを繰どる切り絵にもにじみ、童話の世界に遊ぶ安らぎ、美しさを覚えさせてくれる書である。

ぶつぶつした紬の手ざわりをなつかしむ想いでページを繰り、くらしのうるおいについて考えさせられた。

(山中小 安杖 多美)

地図のたのしみ

堀 淳 一

河出書房新社 850円

地図は、今日広く一般市民生活の中で活用されている。それは、旅などのガイドという実用的な活用が主となっているように思う。

地図を眺めながら、その地形の景観やその地方の人文を想像したり、同じ場所の新しい地図と古い地図を並べて、その歴史を探ったりすることは、地図愛好者の醍醐味である。

豊富に掲載されている五万分の一二万五千分の一地形図の尽きない魅力は、いやが上にも未知の土地や地図へのあこがれをそそるものとして注目できる。

(奥殿小 柴田 正)

お知らせ



特殊学級に楽しい遠足の贈り物

岡崎ライオンズのご好意

○連尺学校百年史
○常盤小学校百年史
○ひろはたようちえん
いづれも写真や資料を豊富に使った眼で見る百年史、五十年史であり、岡崎の教育史、学校史としても貴重な資料。

【刊行あんない】

岡崎ライオンズクラブ（鈴木弘会長）のご好意でうれしい年中行事となった小学校特殊学級の遠足が、こしも十二月四日実施と決まり児童や先生たちを喜ばせている。

バス四台で名古屋東山動物園のコース。特殊学級児童、担任の全員と補助付添教師が参加するが、ライオンズからも担当の役員さんのほかに医師、看護婦さん同行という行きとどいた万全の用意。特殊教育の重要性がいわれるおりからまことにありがたいご好意であり、児童・先生にとって忘れられない楽しい行事となることであらう。

■岡崎の将来像図画募集

岡崎市の都市づくりの将来像を描いた児童の図画作品を次の要領で募集します。

- ①参加者 市内小学校六年児童 全員
- ②内容 望ましい岡崎市の将来像を自由に表現する。
- ③規格 四つ切り 一人一点
- ④〆切 49年1月31日
- ⑤表彰 優秀賞、入選、佳作 全員に参加賞

■健康優良児童生徒

11月7日羽根小での市学校保健大会で表彰された岡崎一、同準一の児童生徒は次のとおり。

- ▼小一位 太田潤（福岡） 山本初美（竜谷） ▼小準一位 犬塚光明（美合） 越智敏仁（附小） 兵藤吉恵（愛宕） 笠芝真紀子（愛宕） ▼中一位 清水洋一（南中） 山本倫子（竜海） ▼中準一位 宮嶋栄治（香山） 鳴戸亮二（東海） 伊子田直子（城北） 水野康子（甲山）

昭和48年度秋季小中学校各種競技会記録

●中学校新人総合体育大会

(10月21日～11月4日)

●市長杯陸上競技個人記録

(8月3日・葵中グラウンド)

	優勝	第2位	第3位
野球	城北	葵	矢作・南
ソフトボール	城北	矢作	岩津・葵
ハンドボール	男 六ツ美	城北	美川・葵
	女 六ツ美	葵	岩津
テニス	男 香山	東海	福岡・城北
	女 矢作	香山	福岡・南
卓球	男 矢作	葵	東海・南
	女 香山	南	常磐・東海
バレーボール	男 甲山	附属	城北・竜海
	女 矢作	城北	南・東海
バスケットボール	男 美川	矢作	南・附属
	女 矢作	美川	南・六ツ美
体操	男 葵	東海	竜海
	女 南	竜海・葵	
柔道	美川	竜海	
剣道	城北	常磐	南
陸上競技	中止		

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M	石川 浩	葵	11" 7	北沢美千代	葵	13" 5
200M	神谷 勝	葵	25" 2	菊地美代子	城北	29" 5
2000M	成瀬 有司	甲山	6' 41" 2			
80MH				石川 洋子	甲山	13" 6
100MH	金田 一宏	甲山	14" 6			
400MR				葵 中	葵	57" 6
800MR	矢作 中	矢作	1' 45" 0			
低学年400MR	矢作 中	矢作	53" 6	葵 中	葵	58" 6
走巾跳	本居 寿和	竜海	5 M74	竹中毎朱深	葵	4 M79
走高跳	伊藤 孝光	南	1 M70	太田 洋子	矢作	1 M44(◎)
砲丸投	石川 浩	葵	12M43	柴田 典子	甲山	10M46
三種競技	高橋 俊之	矢作	1173点	鈴木 孝枝	矢作	1608点(◎)

●小学校陸上競技個人記録 (11月3日公園グラウンド)

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M	犬塚 光明	美合	13" 3	小田 智子	矢作東	13" 9
60MH	三浦 友裕	井田	9" 4	広瀬智恵子	三島	10" 1
1000M	伊子田善三	連尺	3' 11" 3			
低学年400MR	広 幡 小	広幡	1' 02" 9	三 島 小	三島	1' 03" 9
高学年400MR	附 属 小	附属	57" 2	三 島 小	三島	58" 5
走巾跳	山本 剛正	男川	4 M71(◎)	林 弥美	三島	4 M42
走高跳	山本 康博	附属	1 M43	神谷 恵子	三島	1 M33(◎)
ソフトボール投	堀田由記夫	男川	60M70	嶺田 恵子	梅園	46M45

●小学校陸上競技大会 (11月3日)

	優勝	第2位	第3位
男子総合	附属	男川	美合
女子総合	三島	矢作東	羽根
男・女総合	男川	矢作東	広幡

窓



生きがい

大山保

厳寒に耐えて真紅の花を開いた寒梅は、その苦しみをどこにも見せてはいない。家康は「重荷を負うて遠き道を行くが如し」とこの人生を教えたが、苦勞を

語れとは言わなかった。私は明るく生きようと思う。苦しみは早く忘れて楽しい日々好日を心がけていきたい。健康は偉大な財産である。遠

い先祖の恩愛によって今がある有難さ、因と縁とに守られて、健康に生きられる今を感謝せずにはいられない。
ボケットに忍ばせた甲虫に、腕白坊主は愛の目を注ぐ。見事に咲いた白菊に、菊主は愛の喜びを味わう。愛はすべてをはぐくむ源泉である。愛されるものの喜びほど質的に高い幸福はあるまいと思う。
希望・健康・愛情、これが私の人生の目標である。

編集後記

- ：物質の豊かさには慣れやすく、そして体がおこる。木枯とともにエネルギー危機が到来、肌寒さ深。
- ：岡崎の教育界に誇るものが今ひとつ、教育文化賞の創立である。最初の栄誉を受けられた二氏、二団体の功績を共に称えよう。
- ：羽田洋先生の玉稿をいただいた。ゆとりのある教育は、

「教える」ことより「育てる」ことをもつともっと大事にすることではなからうか。
●：特殊教育の今日を築き上げたのは、苦難にもめげずに打ち込んでこられた方々の愛と誠実である。
●：教育の本然の姿を知るには特殊教育の経験を持つことである」の言や重し。
●：今月号のカットは、梅園小学校の木下浩雄先生にお願いした。

12月の行事

日	曜	行	事
1	土	教頭研修会(城北中)	教育論文提出期限
2	日	大樹寺小百周年記念式 婦連協年末助け合いバザー	(婦人会館)
3	月		
4	火	小学校特殊学級遠足	(東山動物園)
5	水	校務主任研修会(矢作中) 西三保健主事会(幸田公民館)	
6	木	教科指導員井田小合同訪問	
7	金	新任教員研修会(六名小)	
8	土	県青写コンクール岡崎支部展(9日まで美術館)	
9	日	秋季一般男女軟式庭球大会 第3回岡崎卓球協会加盟者卓球大会	
10	月		
11	火		
12	水	定例校長会	
13	木	定例教育委員会	・県主事訪問(岩津小)
14	金	教頭研修会(奥殿小・香山中)	
15	土		
16	日	第10回岡崎市郷友武道大会	
17	月		
18	火		
19	水		
20	木		
21	金		
22	土		
23	日		
24	月	二学期終業式	
25	火	冬季休業開始 県中学校長距離継走大会(長久手青少年公園)	
26	水		
27	木		
28	金	官庁ご用納め	
29	土		
30	日		
31	月		